

経営理念と目指す姿

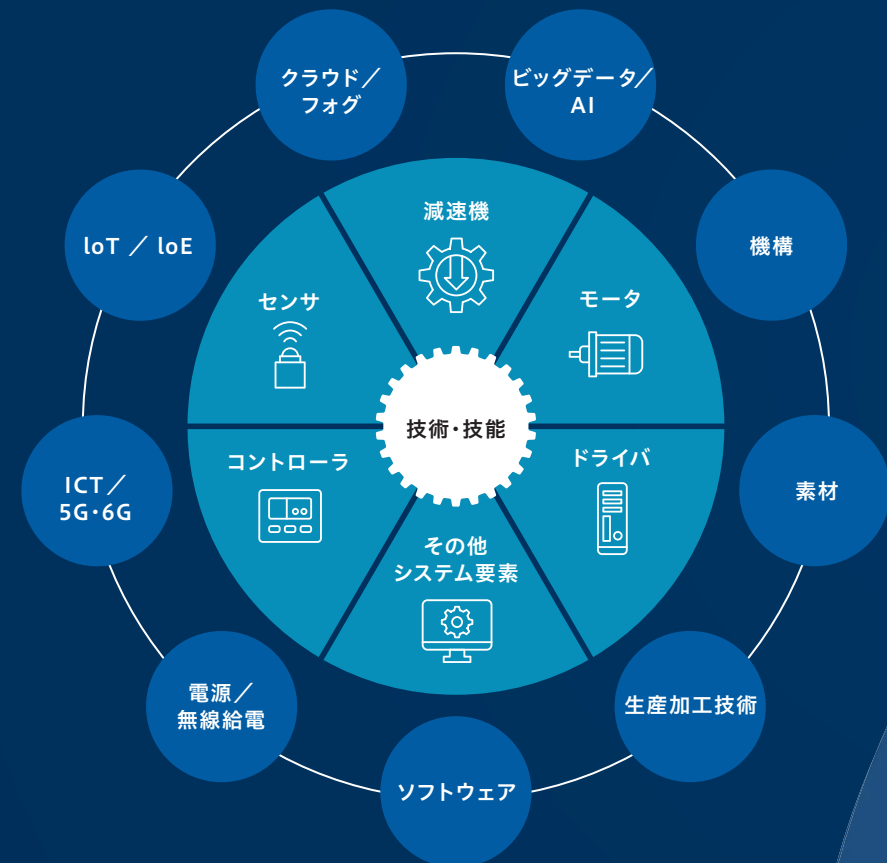
ミッション

モーションコントロール技術で
社会の技術革新に貢献する

長期ビジョン

未来と調和する
トータル・モーション・コントロールの
ベストプロバイダー

トータル・モーション・コントロールの提供



優れたアクチュエータの追求

企業活動を通じて達成する不変の目標

経営理念

個人の尊重

当社は、社員一人一人の権利を尊重し、個人が意義のある文化的な人生と、生き甲斐を追求できる企業でありたい。

一人一人の向上心を信じ、自立的な活動を援助し、仕事を通して能力が最大限に発揮できる環境を作り、能力や業績に報う企業とする。

存在意義のある企業

当社は、存在意義のある、優れた企業として認められることを望む。

独創性を発揮し、個性と特徴をもち、経営の基盤を絶えることのない研究開発活動と品質優先に置く経営を貫く。

全ての部門が、全力を尽くすことに生き甲斐を感じる企業とする。

共存共栄

当社は、社員、株主、顧客、材料部品の購入先、協力会社、取引先などの多くの人々に支えられている。

当社は、これら関係者の全てに満足してもらえるように魅力ある製品、サービス、報酬、環境、取引関係を作り上げるよう最善の努力を払う。

社会への貢献

当社は、社会の良き一員として企業活動を通じ、広く社会や産業界に貢献していく。

我々が提供する製品やサービスが、直接的間接的に広く社会の向上に役立ち、属する地域社会の環境や質の向上に役立つ企業を目指す。

ひとつの発明が、モーションコントロールの世界を変えた

ハーモニックドライブ®の斬新な発想、ユニークな原理は、米国の天才発明家C.W. マッサーによって生み出されました。従来の常識を覆し、金属のたわみを応用するマッサーの発明は、画期的な動力伝達方式として、当時一躍世界から注目を浴びました。そして、その製品化の可能性に賭け、名乗りを上げたのが、米国のUSM(ユナイテッド・シュー・マシナリー)社及び私たちの前身である株式会社長谷川歯車でした。その後、日本で初めてハーモニックドライブ®の実用化に成功。精密な位置決めが要求されるさまざまな分野で、ニーズに応えています。我々、ハーモニック・ドライブ・システムズの価値観である経営理念にはトータル・モーション・コントロールの実現に向けた様々な想いが込められています。



トータル・モーション・コントロールの追求で
産業の未来を築く
—— Harmonic Drive Systems





宇宙開発や空飛ぶ車、ヒューマノイドロボットといった、人類が夢んでいた世界が現実になりつつあります。HDSグループは、波動歯車装置ハーモニックドライブ®を核に「トータル・モーション・コントロール」を追求し、まだ見ぬ産業の未来を切り拓くことで、社会に新たな価値を創造し続けます。

ご挨拶

「未来と調和するトータル・モーション・コントロールのベストプロバイダー」を目指し、
ステークホルダーの皆様と着実に歩みを進めてまいります

取締役会長
長井 啓
AKIRA NAGAI

代表取締役社長
丸山 顕
AKIRA MARUYAMA

HDS REPORT 2025をご覧ください、ありがとうございます。私たちハーモニック・ドライブ・システムズグループは、「モーションコントロール技術で社会の技術革新に貢献する」というミッションのもと、2030年ビジョン「未来と調和するトータル・モーション・コントロールのベストプロバイダー」の実現を目指しています。

我々は創業以来、ハーモニックドライブ®というコア技術を磨き続けてきました。これらは強みでもあります。環境変化に対して油断をすれば、“モノカルチャー”に陥るリスクも伴います。そうしたリスクを回避するためには、変化のスピードを見失わず、常に好奇心を持ち、周囲の変化に目を向け続ける姿勢が重要となります。「個人の尊重」「存在意義のある企業」「共存共栄」「社会への貢献」という経営理念を“成長の礎”とし、企業価値のさらなる向上を図ってまいります。

従業員に向けて

従業員に対して、私たちは強い想いを抱いています。「この会社に入ってよかった」と従業員の皆が実感し、自らの成長を感じられる職場を目指しています。変化の激しい時代だからこそ、安心して挑戦できる環境を整え、失敗を恐れず新たな世界に踏み出す勇気を後押しする企業文化を大切にしています。「“脳力”を解き放つ」という中期経営計画スローガンのもと、従業員一人ひとりが自身の価値を磨き、それが社会に認められるよう制度面からも支援を続けていきます。お客様のニーズは常に変化しており、その変化に応じて新たな価値を生み出すことに、仕事のやりがいと意義を見出して貰えることを信じています。

株主・投資家様に向けて

企業価値の向上には、株主・投資家の皆様との建設的な対話と信頼関係の構築が欠かせません。当社は利益の3分の1を従業員、3分の1を株主、3分の1を成長投資に充てるという方針を長年にわたり継続しています。当社グループの技術は、産業用ロボットをはじめ半導体製造装置、医療機器、航空宇宙などの最先端分野に強みがあり、足下では、AIロボットをはじめとするフィジカルAI分野でも重要な役割が期待されています。AIロボットのプレイヤーが世界的に増加する一方で、計画遂行や量産体制の確立には依然として不確実性があります。そのため当社グループは、計画の実現可能性とリスクを慎重に見極めつつ、社会の大きな流れに柔軟かつ着実に対応してまいります。また、企業の信頼性向上に向けて、ガバナンス強化にも継続して取り組みます。ステークホルダーからの期待が大きくなる中、経営の健全性と透明性を両立することが、持続的成長の基盤になると私たちは考えています。

今後とも、株主・投資家の皆様をはじめとする、すべてのステークホルダーの皆様との信頼関係を大切に、未来に向けて着実に歩みを進めてまいります。引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

お客様に向けて

お客様との関係では、当社グループが自ら新市場を提案するというより、お客様が新たな用途や市場を開拓する過程で、構想段階から技術課題をご相談いただき、それに対してスピーディーに対応することを重視しています。「お客様の期待値に応えること」が私たちの品質定義であり、「一番に相談される存在」を目指しています。また、提供する製品の軽量化・省力化等を通じて、お客様の環境負荷低減を促進する製品の開発にも注力していきます。高品質、長寿命、そして高効率な製品の提供を通じて、持続可能な社会に貢献してまいります。

サプライヤー様に向けて

サプライヤー様とは、高度な加工技術を共に磨き上げ、強固な信頼関係を築いてきました。調達部門では「開発購買」としてサプライヤー様に技術・生産支援を行うとともに、事業継続や後継問題にも対応しています。BCP(事業継続計画)の観点から、国内外の供給体制の最適化にも取り組んでいます。

地域社会・未来世代に向けて

地域社会においては、景観や地球環境に配慮した工場設計、地元高校からの採用、地域イベントや清掃活動などを通じて、共生を図ってきました。単なる雇用創出にとどまらず、「この会社に入りたいから、この町に住む」といった声もいただいております。今後も地域に根ざした持続的な関係づくりを進めてまいります。また、私たちは当社製品を「未来必需品」と捉えています。ロボティクスやモーションコントロール技術は、未来の産業・社会を支える不可欠な存在であり、当社グループの技術が果たすべき役割と可能性は限りなく大きいと確信しています。

目次／編集方針／情報開示体系

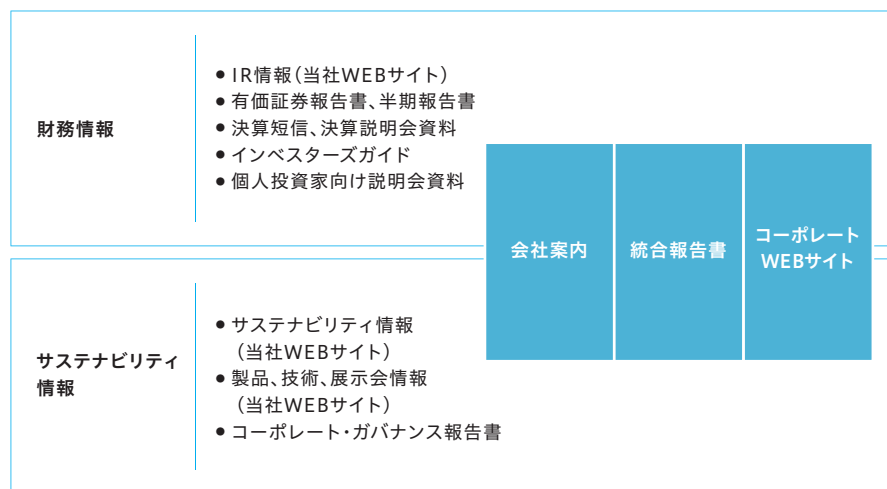
■HDS REPORT 2025の発行にあたって



発行責任者
執行役員 小野 牧子

ハーモニック・ドライブ・システムズグループは、2023年に初めて統合報告書 HDS REPORTを発行してから、今年で3年目となります。私は、本レポートの発行責任を担う担当役員として、記載内容の正確性確保に加え、当社グループの経営戦略とマテリアリティの連続性を向上させ、財務インパクトの創出に努めています。本レポートを投資家をはじめとするステークホルダーの皆様との対話のツールとして活用し、ご意見やご要望を経営に反映させることで企業価値のさらなる向上を図ってまいります。

■情報開示体系



■Contents

I : Introduction

- 01 経営理念と目指す姿
- 03 産業の未来を築く
- 05 ご挨拶
- 07 目次／編集方針／情報開示体系
- 08 注目トピックス
- 09 沿革
- 10 価値創造の軌跡
- 11 ハーモニックドライブ®の特徴と使用箇所
- 12 産業用ロボット業界の変遷と今後の予想される姿
- 13 [特集]AIロボット市場に対する成長戦略
- 14 [特集]中国ロボット市場に対する成長戦略

II : Value Creation Story

- 15 トップメッセージ
- 21 価値創造プロセス
- 22 経営資本と価値創造のつながり
- 23 バリューチェーンの強化と創出価値
- 25 目指す姿の実現に向けたマテリアリティ

III : Value Creation Strategy

- 27 過去の中期経営計画の振り返り
- 29 2024～2026中期経営計画の概要
- 31 財務責任者メッセージ
- 35 資本コストと株価を意識した経営の取り組み
- 37 生産技術責任者メッセージ
- 38 生産責任者メッセージ
- 39 ハーモニック プレジジヨントップメッセージ
- 40 ハーモニック・エイディトップメッセージ
- 41 ハーモニックウィンベルトップメッセージ
- 42 エッチ・ディ・ロジスティクス トップメッセージ
- 43 最高技術責任者・品質責任者メッセージ
- 44 青梅鑄造トップメッセージ

- 45 「絶えることのない研究開発」と「品質優先」を基盤とする経営
- 46 [特集]従業員座談会「HDSグループを支える匠の技能と品質」
- 49 開発技術責任者メッセージ
- 50 研究所責任者メッセージ
- 51 営業責任者メッセージ
- 52 経営企画責任者メッセージ
- 53 Harmonic Drive SE(ドイツ)トップメッセージ
- 54 Harmonic Drive LLC(米国)トップメッセージ

IV : Sustainability

- 55 サステナビリティ推進責任者インタビュー
- 57 人権尊重への取り組み
- 58 地球環境への取り組み
- 59 気候変動への取り組み
- 61 サプライチェーン責任者インタビュー
- 64 人事責任者インタビュー
- 67 リスクマネジメント責任者メッセージ
- 68 コンプライアンス・リスクマネジメント
- 69 [特集]機関投資家と社外取締役の対話
- 73 コーポレート・ガバナンス
- 79 役員紹介
- 81 広報責任者メッセージ
- 82 ステークホルダー・エンゲージメント

V : Data & Profile

- 83 財務ハイライト
- 84 サステナビリティ指標ハイライト
- 85 過去11年間の主要財務データ
- 87 サステナビリティ関連データ
- 90 グローバルネットワーク
- 91 会社概要
- 92 株式情報

編集方針

HDS REPORT 2025は、HDSグループが創出する中長期的な経済価値のみならず、社会・環境価値の向上に向けて、HDSグループの経営理念、長期ビジョン、ビジネスモデル、競争力の源泉となる資本や強み、成長戦略、サステナビリティ活動などを統合的に説明することで、株主・投資家をはじめとする幅広いステークホルダーの皆様理解を深めて頂くことを目的としています。本レポートの制作・編集にあたり、IFRS財団の「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省の「価値協創ガイドライン」などの各種ガイドラインを参照しています。

報告対象範囲

対象組織：株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズおよび連結・持分法対象グループ会社
対象期間：2024年度(2024年4月1日から2025年3月31日)を主な報告対象期間としています。対象期間が異なる場合は、注釈などを入れています。
社名表記：「HDSI」、「当社」は、ハーモニック・ドライブ・システムズ単体を示し、グループ会社を含む場合は「HDSグループ」、「当社グループ」と表記しています。

将来予測に対する注意事項

本レポートに記載されている将来の業績に関する予測や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき、当社が合理的と判断したものです。これらの将来予測は、リスクや不確実性を含んでおり、実際の成果や業績などが本レポートの記載内容と異なる場合がありますことをご留意ください。

注目トピックス

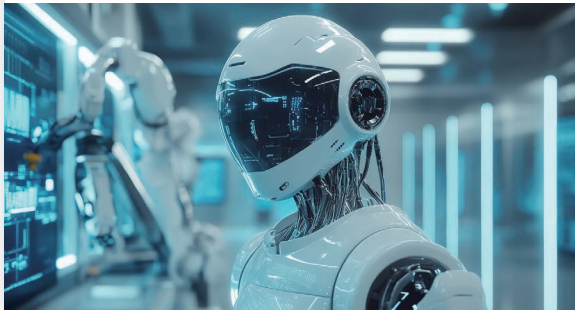
1

AIロボット市場・ 中国ロボット市場の成長戦略

AIロボット市場・中国ロボット市場の特集ページでは、人工知能(AI)の技術進歩により急速な発展を遂げているAIロボットの市場動向や、現地メーカーが台頭している中国ロボット市場に対する当社グループの戦略をお伝えします。

〔特集〕
AIロボット市場に対する成長戦略 …… **P13**

〔特集〕
中国ロボット市場に対する成長戦略 …… **P14**
トップメッセージ …… **P15**



2

国内グループ会社 トップメッセージ

日本国内HDSグループ会社のトップメッセージでは、各社社長が自社製品の特長、事業戦略、成長への強い想いを語ります。HDSグループのミッション、長期ビジョンの実現と中期経営計画の達成を実現するためのグループ各社の強みと取り組みをお伝えします。

ハーモニック プレジジョン トップメッセージ …… **P39**

ハーモニック・エイディ トップメッセージ …… **P40**

ハーモニックウィンベル トップメッセージ …… **P41**

エッチ・ディ・ロジスティクス
トップメッセージ …… **P42**

青梅鑄造 トップメッセージ …… **P44**



3

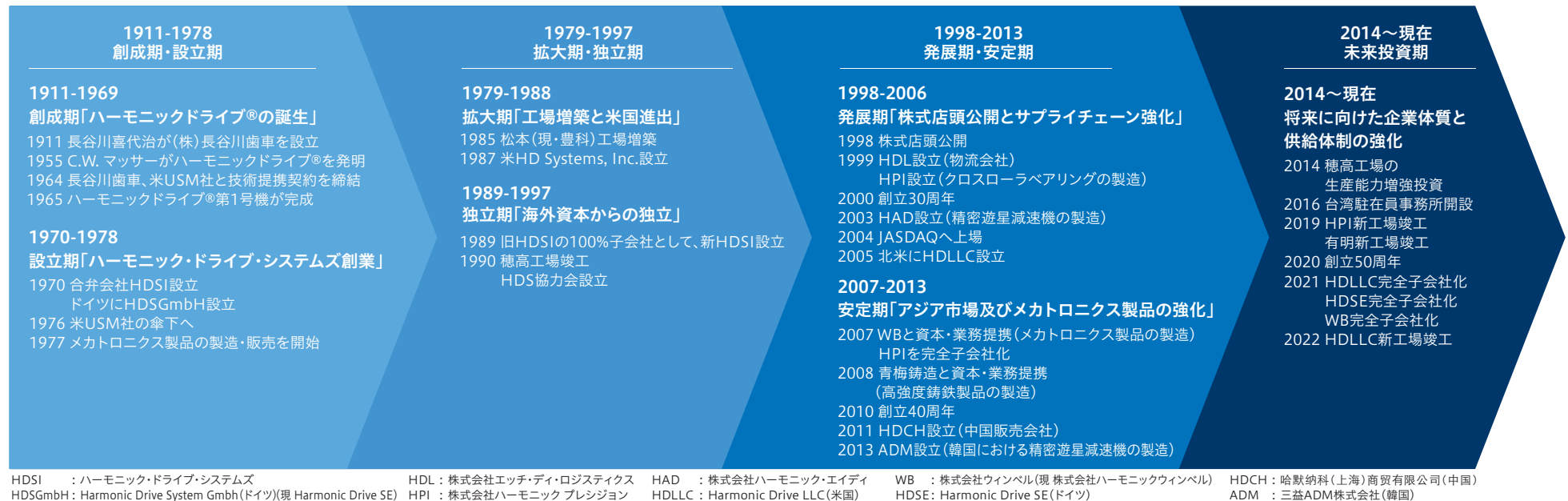
機関投資家と 社外取締役の対話

機関投資家と社外取締役の対話では、HDSグループの持続的な企業価値向上に向けた、ガバナンスの実効性強化や収益性の改善に関する意見が交わされ、当社と投資家双方の視点から未来志向の対話が展開されました。

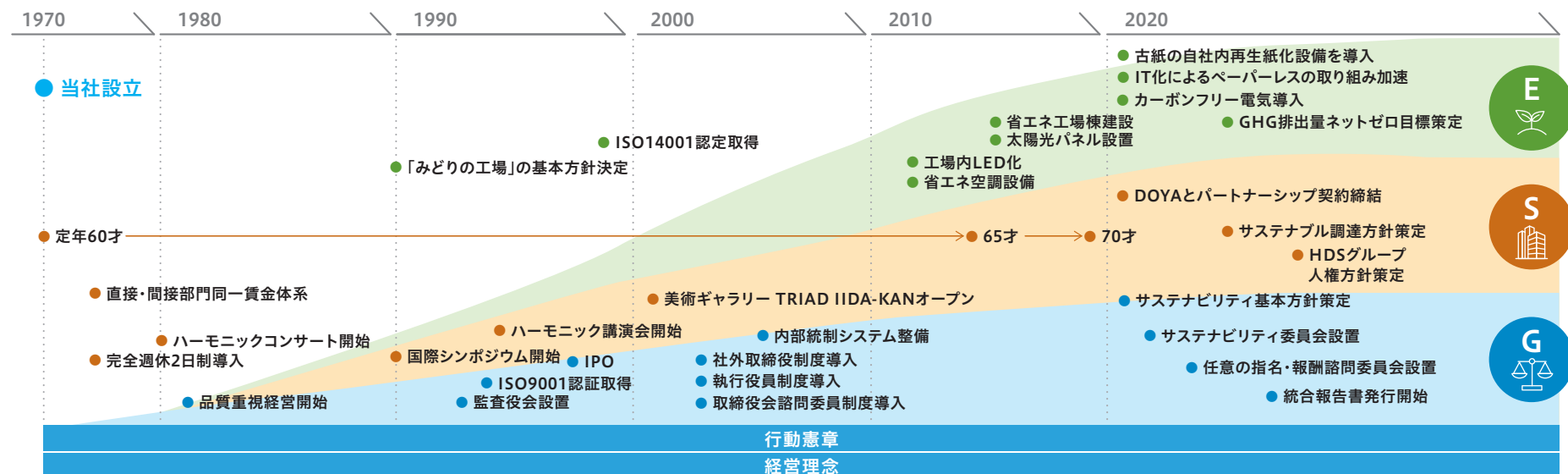
機関投資家と社外取締役の対話 …… **P69**



沿革

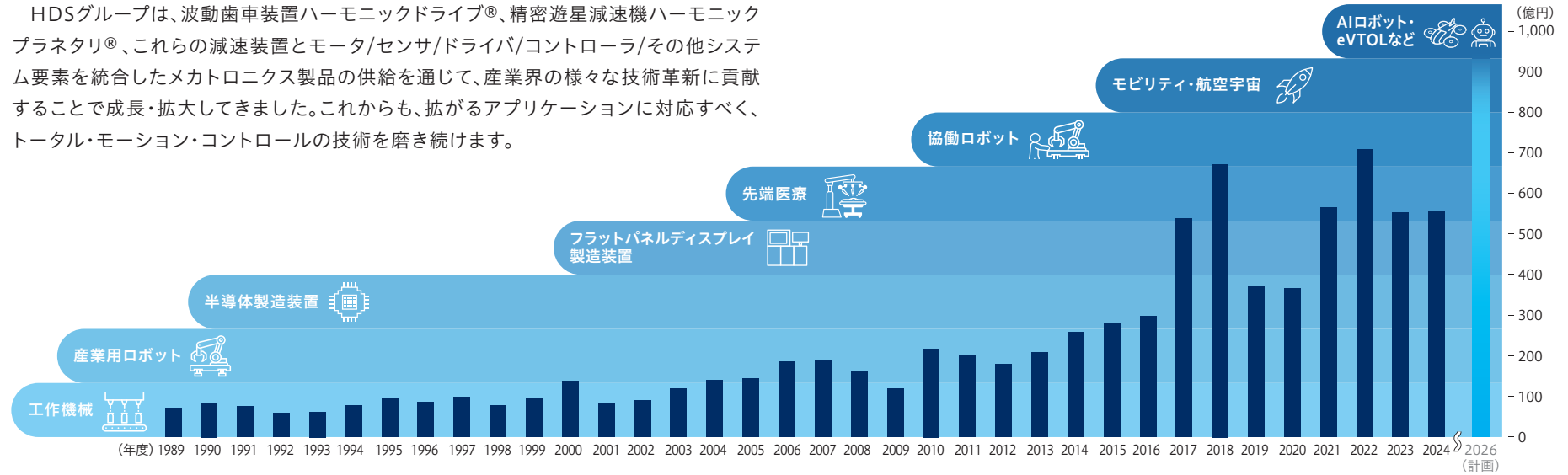


■ 企業価値を高めるサステナビリティの取り組み

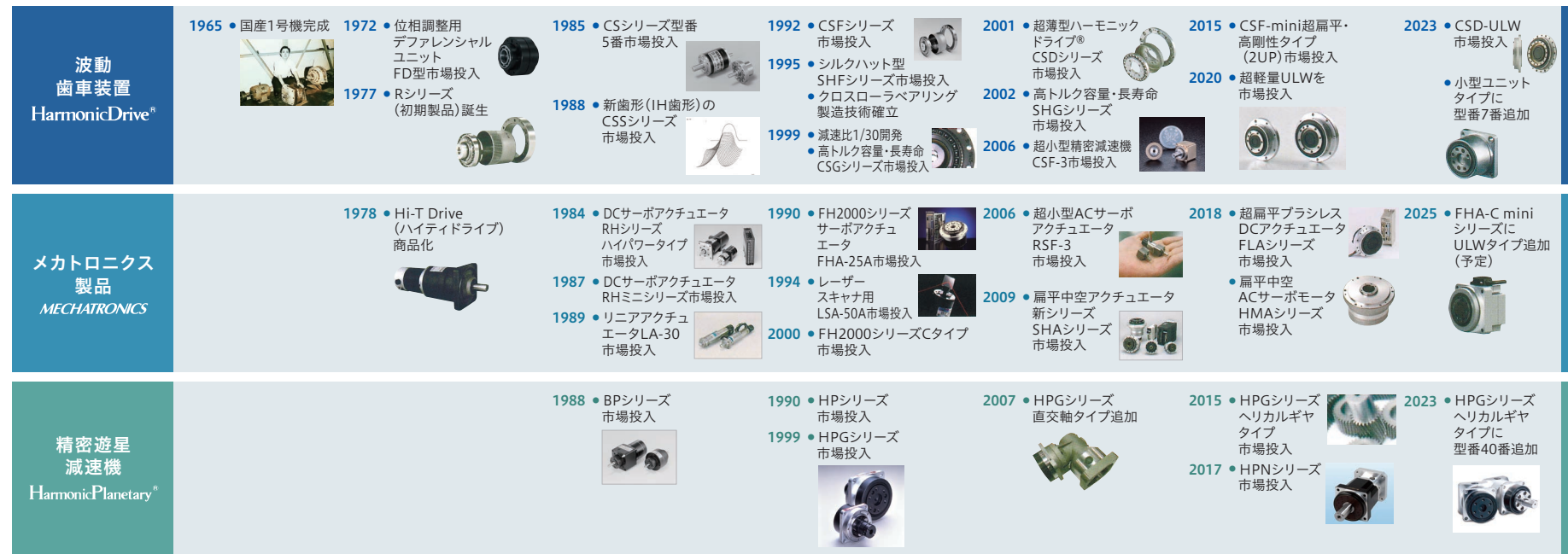


価値創造の軌跡

HDSグループは、波動歯車装置ハーモニックドライブ®、精密遊星減速機ハーモニックプラネタリ®、これらの減速装置とモータ/センサ/ドライバ/コントローラ/その他システム要素を統合したメカトロニクス製品の供給を通じて、産業界の様々な技術革新に貢献することで成長・拡大してきました。これからも、広がるアプリケーションに対応すべく、トータル・モーション・コントロールの技術を磨き続けます。



■多様な製品群



ハーモニックドライブ®の特徴と使用箇所

■ハーモニックドライブ®の原理

当社グループの主力製品である波動歯車装置「ハーモニックドライブ®」は、3つの主要部品で構成されています。波動発生器であるウェーブ・ジェネレータが柔歯車のフレクスプラインを楕円状にたわませることで、剛歯車のサーキュラ・スプラインと噛み合います。この仕組みによって、独自の減速原理が成立しています。

■ハーモニックドライブ®の強みと特徴

ハーモニックドライブ®は、他の減速機と比べて、部品点数が少ないため、小型・軽量であることが大きな特徴です。さらに、歯車同士のかみ合い部分に隙間（バックラッシュ）

がないことから、高精度な位置決めと位置再現性を実現します。また、減速機を中空構造に設計することにより、ロボット本体内部にケーブルやホース類を内蔵することが可能であり、ロボット設計の自由度向上に大きく貢献しています。加えて、高剛性、高効率、静音性に優れた点も高く評価されています。当社グループの製品は、同業他社製品に比べて、高い品質性能を誇っており、お客様との確固たる信頼関係を築いています。

■ハーモニックドライブ®はどこに使われているか

例えば、垂直多関節ロボットには、通常6個の減速機が搭載されます。ハーモニックドライブ®は小型・軽量が強

みであることから、小型および協働ロボット領域で、極めて高いシェアを有しています（ロボット1台に5〜6個）。また、人間の手と同じような自由度をもつロボットハンドでは、1指に3関節、5本指の場合は計15関節部分に搭載されるため、両手では最大30個の減速機が使われます。二足歩行のヒト型ロボットでは、手首、肘、肩、腰といった上半身に加え、下肢部分の関節も含めると、ロボット1台で相当数の減速機が搭載されます。ロボット以外では、eVTOL（空飛ぶクルマ）や手術用ロボット、宇宙開発分野において、高いシェアと豊富な採用実績を有しています。

●波動歯車装置 「ハーモニックドライブ®」



●製品用途例



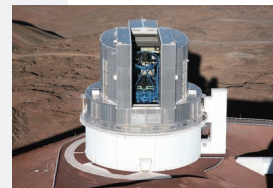
はやぶさ1、2
宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 様提供



産業用ロボット



eVTOL (空飛ぶクルマ)



ハワイ島マウナケア山の大型
光学赤外線望遠鏡「すばる」
大学共同利用機関法人国立天文台様提供



協働ロボット
Techman Robot Inc. 社様提供



手術用ロボット

産業用ロボット業界の変遷と今後の予想される姿

■産業用ロボット業界の進化

中大型ロボットから小型ロボットへ市場の裾野が拡大

産業用ロボットは、自動車産業を中心に製造業における品質向上と大量生産の実現、自動化・省力化ニーズ、労働環境の改善対応などを背景に、1980年代に第一次ロボットブームを迎えました。その後、1990年代後半からは海外市場向けを中心に第二次ロボットブームが到来し、自動車産業における溶接や部品搬送などの分野において中大型ロボットの導入が進みました。また、産業用ロボットの普及が進む中、スマートフォンなどの小型で精密な組み立てなどの新たな用途の誕生と小型ロボットの開発が進むことで、中大型ロボットから小型ロボットへ市場の裾野が拡大しました。

規制緩和を契機に協働ロボット市場が急成長

従来、モータの出力が80W以上の産業用ロボットには安全柵を設ける対策が必要でした。しかし、2013年に国際安全規格(ISO10218-1)が定めた要件を満たす場合は、安全柵の設置を不要とする規制緩和が実施されました。これを契機に、製造業全般において、取出や組立、搬送などの用途を中心に、「協働ロボット」の現場導入が急速に進展しま

した。2025年には14年ぶりに国際安全規格が改訂され、より安全性を重視する内容となりました。今後は、物流・医療・サービス・教育分野などへも協働ロボットの導入が進むと予測されています。

AIの進化が次世代ロボットの開発を加速

現在、AI技術の進化に伴い、ヒト型ロボットに代表されるAIロボットの開発が世界的に本格化しています。製造現場のみならず、物流倉庫、宇宙探索や深海開発などの特殊環境、また介護や家庭内といった日常生活分野においても人間の代替として活躍するAIロボット市場の拡大が期待されています。

■産業用ロボットの需要見通し

IFRは需要予測を上方修正

2025年9月、国際ロボット連盟(IFR)が発表した2024年のグローバル産業用ロボット市場は、前年比微増の54万2千台となりました。そのうち協働ロボットは、市場全体の12%を占め、2019年対比で約3倍に拡大しています。2025年の産業用ロボット市場は、前回予想(55万5千台)

から上方修正され、前年比6%増の57万5千台、2026年は前年比約8%増の61万9千台(前回予想57万5千台)に成長することが予想されています。世界経済の不透明感が残る中、自動化、省力化ニーズは引き続き旺盛であるうえ、AIの進化が市場の押し上げに働いています。

小型ロボットの成長率は相対的に高い

IFRは、2025年から2028年までのグローバル産業用ロボット市場の成長率を年率7%と予測しています。当社グループが注力する協働ロボットを含む小型ロボット市場は、用途の拡大や導入現場の広がり、国際安全規格の改訂などを背景に、産業用ロボット市場全体を上回る成長率が期待されます。

長期的にはAIロボットの巨大市場が誕生

長期的には、世界的な労働人口の減少に加え、AIをはじめとする技術進化を背景に、ヒト型ロボットに代表されるAIロボットの需要が爆発的に拡大すると予想されます。本格的な普及時期は2027年以降と予想されており、2050年には10億台もの巨大市場が誕生する可能性があります。

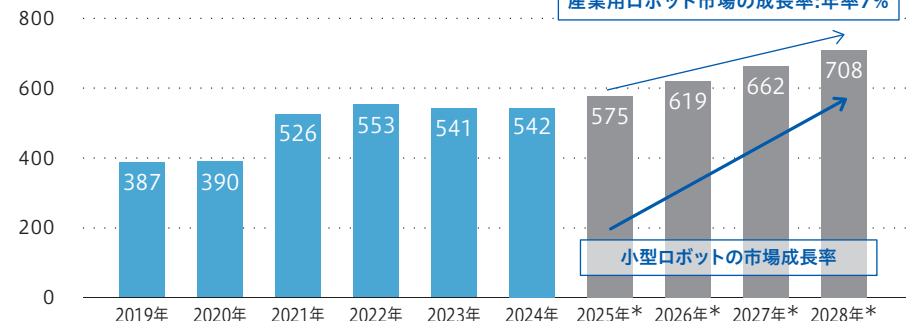
●産業用ロボットの特徴と変遷

	1980年～ 産業用ロボット	1990年後半～ 産業用ロボット(小型)	2010年～ 協働ロボット	2027年～ AIロボット
採用業種	自動車産業中心	スマホ/半導体など製造業一般	全ての業種	
用途	溶接、搬送	取出、組立、搬送	人間の代替	
サイズ	中大型	小型(可搬重量20kg以下)	中小型	
(減速機サイズ)	中大型	小型	中小型、超小型	
設置形式	固定式	固定式	移動可能	
拡大要因	品質向上・大量生産	労働者の代替・安全規制の緩和	AIの進化	
市場規模(年)	約50万台	約7万台(協働ロボット)	潜在市場推定10億台	

小型ロボットの市場成長率は産業用ロボットの成長率を上回るという当社想定は変わらず

Annual installations of industrial robots 2019 – 2024 and 2025* – 2028*

('000 of units)



*予測値

Source : IFR World Robotics 2025を基に当社作成

特集

AIロボット市場に対する成長戦略

■ AIロボットとは

AIロボットに明確な定義はありませんが、一般的には人間と同様の形状や機能を備えたヒト型ロボットを指します。ホンダの「ASIMO」やソフトバンクの「Pepper」などが広く知られていますが、これらは主にエンターテインメント用途で活躍してきました。現在、世界的に注目されているヒト型ロボットは、人間に近い二足歩行機能を持つものが多く、人間の代替としての実用的な役割が期待されています。

■ なぜ、今、AIロボットが注目されているのか

従来の産業用ロボットでは、動作・作業を教え込む「ティーチング」が導入時の大きな障害になっていました。しかし、近年の生成AIの劇的な進化に伴い、ロボットに「脳」が搭載されることで、自律学習が可能となり、社会実装が急速に進む可能性が高まったことが背景にあります。

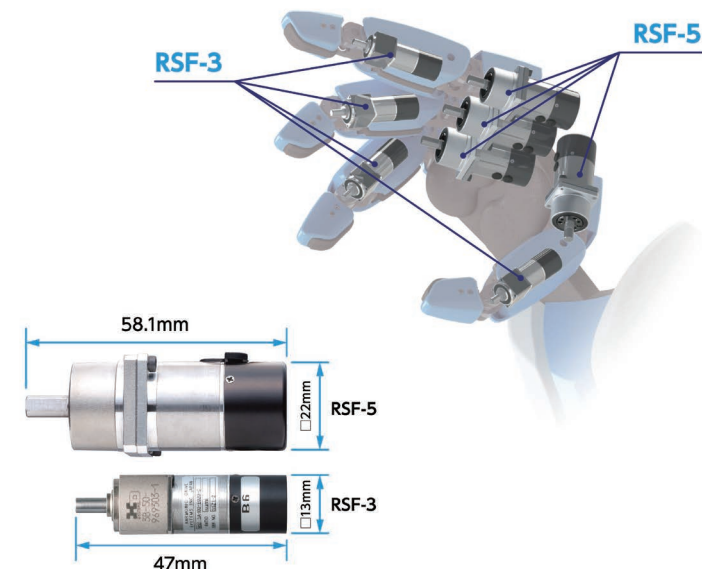
米国では、巨大テック企業が巨額の資金を投じて、AIロボット市場の創造に挑戦しています。

■ 期待される用途と市場

AIロボットは、少子高齢化などによる労働者人口の減少を背景に、製造業での完全無人化工場、物流分野での無人搬送などへの採用が検討されています。また、老健施設や家庭での介護・医療サポート分野や、宇宙や深海、災害救助などの過酷な環境での活用も期待されています。米国のAIヒト型ロボットメーカーのトップは、「世界のGDPの半分は人間の労働に支払われており、それがロボットに代替されるならば、年間6,200兆円もの巨大市場に匹敵する」と述べています。こうした期待を背景に、米国のみならず中国や欧州でも参入企業が増加しており、近い将来、AIロボットをはじめとするフィジカルAI市場の急激な拡大が期待されています。

■ 当社グループの戦略と業績インパクト

当社グループは、AIロボットの上腕部や膝などの各関節向けには既存の小型ハーモニックドライブ®、ロボットハンドの関節部分には世界で当社のみ市場投入している「超小型ハーモニックドライブ®(RSF-3、RSF-5)」が採用されることを期待しています。現在、当社グループは、欧米AIロボットメーカーのほぼ全てから引き合いを頂いているほか、当社グループからも積極的にアプローチしています。さらに、参入機会を模索する大手企業各社と連携し、アクチュエータやロボットハンドを中心に、AI・先進ソフトウェアに追従可能なロボットアームの共同開発も開始しました。業績面では、中期経営計画で示した想定よりも若干遅れはあるものの、既に複数社との取引がスタートしており、今後数年内には相応の売上規模に達すると見込んでいます。



特集

中国ロボット市場に対する成長戦略

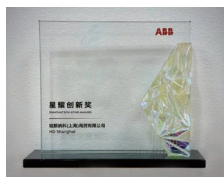
中国市場において、当社グループの製品品質に基づく優位性を発揮しつつ、最適な成長戦略を実行することで、2030年に20%以上の市場シェア獲得を目指します。

哈默纳科(上海)商贸有限公司

董事 兼 総経理

中平 剛史

TAKESHI NAKAHIRA



注目トピックス

上海ABB有限公司様から

INNOVATION STAR AWARDを初受賞

長年に渡るロボット開発に対する貢献や技術面でのパートナーシップ、ビジネス面での密接な協力関係を高く評価いただきました。

Q:なぜ中国市場において評価されているのでしょうか。

A:当社は、2024年に設立15周年を迎え、売上高は過去最高を記録しました。その原動力となったのは、中国ローカルロボットメーカー向け需要の増加です。当社製品の性能や信頼性に加えて、技術的なサポート力が差別化要素として高く評価されています。一方で、販売価格の低下が懸念事項です。当社では収益性を重視しつつ、お客様と合意可能な範囲で柔軟に対応しています。実際、お客様自身も価格競争から脱却し、品質向上を通じて、ハイエンド市場や海外市場で競争力を高めたいという想いを持っています。そのため、当社製品を採用するお客様が着実に増加しています。

Q:どのようにして顧客基盤を拡大させていますか。

A:2024年度中の取引実績は約330社にのびりました。ロボット分野に加え、半導体製造装置の中国国産化に伴う開発案件を手掛けるお客様も増えており、日本および米国での納入実績に加えて、小型・高精度製品の豊富なラインアップが高く評価されています。売上構成はミドル

エンドの中国ローカルメーカー向けを中心に、ロボット分野が7割強、半導体製造装置が5~10%、残りが工作機械などとなっています。

Q:中国市場の成長ポテンシャルを教えてください。

A:中国の産業用ロボット市場(協働、ヒト型を含む)は、2027年にかけて年率10%超の成長が見込まれます。当社の受注環境においても、AI・ヒト型ロボット案件の注文が増加しており、複数の企業が量産化に向けた動きを加速させています。また、従来のロボットメーカーに加え、関節モジュールメーカーへのアプローチを進めています。さらに、半導体製造装置の国産化に伴う需要獲得も見込まれます。特に、AI・ヒト型ロボットの需要次第では、市場予想を上回る成長が実現可能だと考えています。

Q:今後の市場シェアと業界動向をどのように見えていますか。

A:2024年の中国における当社シェアは、大口のお客様の採用拡大が寄与し、2023年の9.3%から12.1%へ上昇しました。2025年については、ロボットメーカー間の競争



激化を背景に、若干の低下が懸念されますが、2030年には20%以上のシェア獲得を目指しています。中国のロボット業界では、価格競争に耐えられるメーカーが生き残るのではないのでしょうか。減速機メーカーにおいてもお客様との協創を通じて利益成長を実現できる企業が競争を勝ち抜くと思います。

Q:中国市場における攻めの戦略と中長期の業績目標を教えてください。

A:中国ローカル大手サーボモーターメーカーとのコラボレーションが既にスタートしています。また、中国ローカルパートナーとの戦略的な協業やターゲットとするお客様を絞った攻略、さらに、サーボダイナミクス社との戦略的販売提携などを通じて、中国ローカルロボットメーカー様向けを中心とした市場シェアの拡大と、収益成長を目指します。2024年度の売上高は56億円、営業利益は5億円(営業利益率9.0%)でしたが、2027年度には収益性を維持しつつ、売上高68億円を目指し取り組んでまいります。